

学長 平 川 新

<新役員あいさつ>

昨年4月に学長として着任してから1年。同窓会の役員の方々と種々の会合でご一緒したり、お話をさせていただく機会がたくさんありました。そのたびに母校への強い愛着を抱いておられることを実感しました。それが同窓会活動への献身的なおはたらきになっておられるのだと拝察しております。また、あちこちの講演会や会合に出かけたときに、私は宮城学院の出身です、と声をかけられることが、しばしばあります。これもうれしいことです。

同窓会には、奨学金をはじめとして物心両面のご支援を学生たちにいただいております。ひとすじの灯りで学生たちの足もとを照らしてくださる同窓会の皆さまに、心より御礼を申し上げます。

<学校近況報告>

宮城学院は1886年の宮城女学校の創立以来、東北地方の先進的な高等女子教育を担ってきました。その歴史と伝統を守りつつ、少子化による学生人口の減少という現代の状況にあわせて、どのような対応をしていくか。いま、大学の改革力が試されようとしています。

改革の基本姿勢は、強いところはさらに強く、弱いところは強く、という点にあります。受験生である高校生たちは、とてもシビアです。自分たちが学びたい分野があるのかどうか、自分たちの生き方に役に立つのかどうか、冷静に見ています。それと同じ目を私たちがもって、自己点検していけるのかどうかにかかっています。大学は2016年4月に新しい学部を立ち上げることをめざして、いま改革の大きな歩みを進めているところです。